

悔しさ、喜び、ぬくもり…

福岡マラソン劇場

ふくおか都市圏

モリタゴルフ

購読のお申し込み

0120-44-0120

悔しさ、喜び、ぬくもり…。9日、初めて開かれた福岡マラソンは、福岡市・天神から糸島市に至る42・195キロの道のりで、さまざまなドラマを生んだ。

最終関門 泣き笑い

コースには制限時間内に通過できないと失格となる関門が九つ。40・1キロ地点の最終関門では、閉鎖5分前から残り時間のアナウンスが始まると、ランナーは一斉にスピードアップした。午後2時59分、赤旗が振られるとロープが張られ閉鎖となった。係員は「一番つらい役回り」。



最終関門を通過できなかった福岡市の橋村正清さん

抱えた。最後に通過した熊本県南阿蘇村の西田由紀さん(41)は「間に合ったら体が軽くなった」とフィニッシュまで

得意の芸能 走者迎える

コース沿い5カ所の公園や店舗駐車場などでは市民応援団が得意の芸能でランナーを迎えた。糸島市の二見ヶ浦では豆絞りの手ぬぐ

で一気に駆け抜けた。



いと鼻に着けた一文銭が愛らしい、篠栗町のボラン



フィニッシュ直後、田代智子さん(右)にプロポーズして、婚約指輪を贈る進藤大樹さん

「人生のゴールまでずっと一緒」

初マラソン 完走後に求婚

輪をはめた。

2人は10年間交際し、進藤さんが4月に結婚を決意。この大会をプロポーズの場を選び、8月から2人で練習を重ねた。

サブライズに涙を浮かべた田代さんは「完走して特別な日なのに、感動します」。

足湯でくつろぐランナーたち



足湯にランナーほっこり

○…フィニッシュ後のランナーで行列になったのは、福岡市博多区の浄水器メーカー「クリスター」が設置した足湯。東日本震災の被災地に送って喜ばれたという移設式で、東京から参加した古志智也さん(34)は「寒かったから特にいい感じ。一度漬かると、もう帰りたくなりますね」。ほっこりとくつろぐランナーの姿に岩本藤光社長(71)は「ぜひ来年も設置せにゃ」と話した。

教え子から手作りメダル

○…コース30キロ地点にある福岡市西区の北崎小学校では、昨年度まで校長を務めていた別府洋一郎さん(59)＝同市立玉川小学校長＝の走りを児童や保護者、教員らが応援した。

「張り切り過ぎてオーバーペースになってしまった」という別府さん。ゴール後、たしななハイタッチで後押し。ゴールをもらった別府さんは「走らせて良かった」と笑顔。



完走後にランナーをねぎらう小嶋由水さん

ゲストランナー笑顔の完走

○…女子マラソン選手として活躍した谷川真理さん(52)と小嶋由水さん(42)、視覚障害マラソンの道下美里さん(37)、夫婦合計タイムでギネス記録を持つ佐藤健太さん(33)、紀子さん(34)夫妻のゲストランナー4組もフィニッシュゲートをくぐった。道下さんは「太鼓や鳴り物の応援が心臓に響いた。福岡はランナーとして育ててくれた場所。もっといい大会になってほしい」と話し、小嶋さんは「後ろ向きに走りながらハイタッチした。ランナー同士の声の掛け合いが良かった」と振り返った。

ティア団体「正調安来節福岡同好会篠栗道場」の会員13人がどじょうすくいを披露し写真。コミカルな動作で応援に来た人も湧かせた。

同好会の村瀬紘一道場長(74)は「室外で披露することとはほとんどないが、二見ヶ浦の絶景を前に踊ることができてよかった」と笑顔。

僕の夢私の夢



春日東小6年

岡部 風樹

ほくの夢は、プロ野球選手です。理由は、野球をして遊んでいるときに一番楽しいからです。そのため、友達とバッティングやキャッチボールなどの練習をして強くなりたいです。(春日市若葉台東)